

OBC (生物学国際高等コンファレンス) について

児 玉 隆 治

OBCは、正式名称を「生物学国際高等コンファレンス(日)、Okazaki Biology Conference(英)」といい、英語名称の頭文字をとってOBCと略称している。分子生物学手法を駆使した基礎生物学分野の開拓という初期の研究所の使命が一段落した時点で、今後の研究所は何を目指すべきかという議論が教授たちによって行われた際に、今後の生物学の中心となる分野における研究者コミュニティを形成することを目指して、今までにないスタイルのコンファレンスシリーズを開催する方針が立てられた。生物科学学会連合所属の学会代表による意見交換会(第1回、2002年8月(11学会が参加)、第2回、2003年1月(15学会が参加))を経て、多くの学会の支持のもとに企画がすすめられ、2004年1月に第1回が開催され、現在までに5回が開催された。

これまで基生研で開催されてきたコンファレンスとOBCが異なる点は、以下のとおりである。1) 現在の基生研所属研究者の専門分野にとらわれず、広く生物学の諸分野を見渡して、今後大きな発展が予想される分野をとりあげていること。基生研に所属しない研究者からオーガナイザーを選ぶことを当面の方針としている。2) 主として招待参加者によるクローズドの会とし、最新成果の発表や討論ができるようにしたこと。発表の撮影や録音は禁止され、プロシーディングズの発行もしていない。3) 国籍を問わず、現在もっともアクティブな研究者を既存の複数の領域から集めていること。招待参加者の約半数から7割が海外からの参加となっている。これまでにない顔合わせの実現に努め、新しいコミュニティの形成をはかっている。

これまでにOBCは3つのテーマを取りあげた。第1回(2004年1月)と第3回(2006年3月)は絶滅の生物学(The Biology of Extinction)、第2回(2004年9月)と第4回(2006年9月)は地球圏微生物学(Terra Microbiology)、そして第5回(2007年3月)は種分化と適応(Speciation and Adaptation)である。「絶滅の生物学」では、生態学、保全生物学、数理生物学の専門家を集め、化石時代から現代に至る種の絶滅がさまざまに議論され、新規の学問分野としての体系化が視野に入るに至った。第1回開催時にはNatureのNews Articleに取りあげられ、日本での新規の試みとして注目を集めた。「地球圏微生物学」では、多様な環境に生息する微生物に、ゲノムサイエンス等の急速に進歩した手法を適用することにより、生物学の基礎としての微生物学が新たに生物学の最前線に立とうとしている姿が明らかになった。「種分化と適応」は、種々のモデル動植物に見られる適応進化や種分化、共進化のメカニズムをめぐる討論が展開された。

OBCは、約一週間にわたる会期中、参加者同士が十分にコミュニケーションを重ねてもらえるよう、なるべく食住を共にできるよう計画されている。第1回、第3回、第4回は岡崎コンファレンスセ

ンターを会場とし、岡崎ニューグランドホテルでの合宿とした。また、第2回は三重県志摩市、第5回は静岡県掛川市のリゾートホテルで開催した。参加者の一体感という点では、後者の形式が優っているが、経費等の問題もあり、今後もよりよい開催形式を模索したい。コンファレンスの運営にあたっては、事前準備を基生研戦略室におかれた事務局が担当するほか、航空券手配、現場運営などを複数の会社に依頼してきた。参加者のアンケートでは、いずれの部分に対しても高い評価が寄せられている。

OBCは、その性格上、プロシーディングズなどを出版して成果を直接表に出すわけにはいかない。むしろ、OBCを通じて可能になった共同研究の成果として書かれた原著論文や、OBCを契機として執筆された総説などを通じて徐々にその存在が知られて行くものと考えている。また、これまでのOBC参加者が、その周辺の研究者に参加の感想などを伝えることで、徐々に研究者間でもその存在が認識されてきているように思われる。最近開催されたOBCの準備段階で、参加を打診したところ『OBCは良い評判を聞いているから参加したい』という返事が返ってきたケースがいくつかあったとの報告がオーガナイザーから寄せられており、大いに励みとなった。また、既に開催された分野において、所期の目的である新規の研究者コミュニティ形成がすすみつつあるようにも聞いている。

OBCでとりあげるべき分野については、これまで基生研内の小委員会での討議で選定してきたが、当初より生物学諸分野の最新状況に明るいメンバーからなる国際諮問委員会を設置することが計画されており、なるべく早い実現が急がれている。これに加えて、より密度の高い研究者交流が実現できるようなコンファレンスを目指して、OBCの一層の発展に向けて努力していきたいと考えている。



↑ 第1回 OBC(岡崎コンファレンスセンター中会議室)
→ 第5回 OBC(ヤマハリゾートつま恋・静岡県掛川市)

